

上富岡倶楽部

2019.3
vol.8

長岡技術科学大学同窓会報

余計なお節介

(株)北越銀行 技術協力室 専任顧問
長岡技術科学大学名誉教授(機械創造工学専攻)

柳 和 久



本拙稿の著者は長岡技大の元教員(名誉教授)であり、この度、半強制的に執筆を課せられたことを前置します。私は1950年4月に長岡市(旧三島町)で生まれ、1969年4月から住民票を東京都に移しました。その間に長岡工業高等専門学校を受験しましたが、幸か不幸か入学はしませんでした。ひょんなことで1982年10月1日に長岡技大の教官(専任講師)となりました。私はこれまで2大学に奉職しましたが、縁あって同一人物の大学長(故川上正光先生)から2通の人事異動通知書をいただいています。実に珍しい事例(辞令)ではないでしょうか。それから2016年3月末まで長岡技大に教員として常勤しましたので、おそらく本会とも特別の思いで深くかわるようになったのだらうと思っています。

広辞苑によると、同窓は同じ学校(大学)で、または同じ師について学んだことであり、該当者の集合を同窓会と呼称するのが一般的のようです。とすると2017年に拝命した「同窓会顧問」のミッションは何かという疑問が湧いてきます。好意的に解釈すれば、諮問に依じて意見を述べる助言者となりましょう。しかし、厳密には同窓でない元教員(卒業生・修了生の支援責任者)なのです。あえて掲げるならば、現住所が長岡技大に近いこと、大方の役員と面識を持っていること、成員との接点が多いことなどが他薦・自薦の理由です。

学校・大学を問わず「同窓会」が存続するためには、その会が矛盾のない会則を保有していること、運営に支障を来さない財源を確保していること、人的ネットワークを心の拠り所としていることなどが必要のように思います。このうちの人的ネットワークが「砦」となりそうですが、本学の場合は同窓の生活基盤が全国あるいは世界に散らばっている以上、同じ物理空間で一体感を深めようとするのは至難の業となります。そこで、支部構想が浮かび上がってくるのですが、支部設立にも相当の困難が立ち塞がりま

す。かつて所属していた課程別や専攻別の同期会が折に触れて開催されるとしたら同窓たる所以を実感すること必至でしょう。なお、ご覧いただいている同窓会報は必ずしも紙媒体である必要はなく、電子媒体が常態化するの

は時間の問題かも知れません。お節介が過ぎますが、会報に長岡技大便り、支部便り、同期会便り、VOS人の今、名物指導教員のその後や成員の顕彰などが盛り込まれることを期待する次第です。ただし、会報編集担当者の労苦を十分に償うことが前提となりますのでご注意ください。

残念なことに、本同窓会はこのままでは任意団体の位置づけであり、法人格を持っていないため常に後ろめたさが残ります。また、動産や不動産の維持管理が難しくなる局面が予想されてしまいます。その際には、法人格を持たせた後援会(校友会の将来像?)のような組織を併設して乗り切るのが慣用手段であることを入れ知恵します。

余計なお節介の締めくくりとして、任意団体における成員と代表者との関係について日ごろ考えていることを紹介

します。以下に示す5種類の関係はハンナ・ピトキン著「代表の概念」が情報源ですが、そのうちの④が私の強く切望する代表者(いわゆる役員)のあるべき姿です。

①代表者に一定期間任意に行動する権限を与える

「権威付与」型

②代表者にその行動を説明する責務を負わせる

「説明責任」型

③代表者が団体の利益を忠実に写し出す「描写」型

④代表者が団体を惹きつけて、行動への支持を確保する「象徴」型

⑤団体に代わって代表者がその利益にかなうよう実際に行動する「活動」型

つまり、同窓会成員の「心に働きかけ」、感情的な同一化を引き出すような象徴を創出することを通じて代表関係が構築、維持されるものと確信するのです。同窓会の縦系が先輩・後輩を繋ぐ愛情であること、また同窓会の横系が同期の末永い絆であり続けることを願ひまして拙稿を閉じることになります。

以 上

「第7回 復活！開学記念マラソン大会」を開催

大会報告

同窓会理事 **芳賀 仁**（エネルギー・環境工学専攻 平成16年3月修了）

同窓会の周知と地域交流を主な目的として、平成24年から「復活！開学記念マラソン大会」を企画しています。平成30年10月20日に第7回大会を行いました。

マラソン競技は親子、小学生を対象にした2kmコース、学生、一般向けの5km、10kmコースをそれぞれ大学周辺に用意しています。本イベントはマラソン競技だけでなく、参加者のご家族やご友人にも楽しんでいただけるよう、ふわふわ遊具や縁日コーナーを用意して無料で開放しています。長岡技術科学大学の後援に加えて、内田エネルギー科学振興財団からの助成も受けています。技大に親しみ、そして同窓会を知っていただく行事を目指しています。

大会運営は主に同窓会役員と、学生、教職員のボランティアで行っています。コース上に誘導員と給水ポイントを配置して安全確保を行い、のぼり、立て看板を設置して大会を盛り上げています。年々、地域からの参加が増えています。今回は107名の参加をいただきました。

当日は、あいにくの雨天でしたが鎌土理事副学長によるスターター号砲のもと、参加者一斉にスタートしました。登り下りのきついコースにも関わらず、沿道の方々の力強い心温まるご声援を受けながら、皆さんが無事に完走を成し遂げ爽やかなゴールの瞬間を迎えることができました。マラソンを通じて、苦楽を共にした仲間と一緒に、お世話になった母校周辺や懐かしい近隣地域を走り、汗を流して、お互いの健康を喜び合うこともできたと思います。ゴール後は、用意した軽食（おにぎり、トン汁）を食しながら体育館で談笑している和やかな光景が今回も印象的でした。表彰式では、各コースの上位入賞者に賞状と副賞が渡されました。また、参加者全員に参加賞も配られました。卒業生の皆様もぜひ一度、参加してみませんか。

種目：

2kmコース（親子、小学生対象）

5km、10kmコース（中学生以上対象）

・スタッフ協力

79名（第6回：75名、第5回：75名、第4回：77名、第3回：74名、第2回：84名、第1回：90名）

・ランナー

2km 116名（第6回：75名、第5回：44名、第4回：56名、第3回：52名、第2回：17名、第1回：23名）

5km 51名（第6回：75名、第5回：87名、第4回：53名、第3回：43名、第2回：64名、第1回：60名）

10km 79名（第6回：78名、第5回：86名、第4回：83名、第3回：84名、第2回：106名、第1回：52名）

うち、地域から107名

大会成績

2km

1位 早川 巧真（地域の方）8' 23"

2位 諸橋 磨滂斗（地域の方）8' 25"

3位 徳橋 光海（地域の方）8' 32"

5km 男子

1位 西方 太地（地域の方）17' 06"

2位 伊藤 俊一（M2）18' 04"

3位 和田 昌明（地域の方）18' 57"

5km 女子

1位 八木 香織（地域の方）25' 30"

2位 八木 栞里（地域の方）26' 07"

3位 元井 瞳（地域の方）26' 25"

10km 男子

1位 小林 逸郎（OBご家族）36' 31"

2位 長谷川 聡一（B1）39' 09"

3位 佐藤 友裕（地域の方）39' 22"

10km 女子

1位 西方 愛恵（地域の方）41' 52"

2位 星野 香織（地域の方）49' 42"

3位 諸橋 智美（地域の方）52' 10"



コスパ最高

大河原 譲 (材料工学専攻 平成10年3月修了)

第7回 開学記念マラソン 10kmに参加しました。運営の方々、ボランティアの方々、大変有り難うございました。楽しい一時を過ごす事ができました。

まず、これまでのマラソン歴を紹介します。地元のローカルテレビで映し出されるハーフマラソン大会のゴール定点カメラを、何気なく見ていました。最初はポーッと見ていたので、何も感じませんでしたが、徐々に、ゴールしたランナーのほぼ全員が笑顔である事に気付きました。長距離を走った後に笑顔になれる心境はどのようなものか、経験したくなり、次の日から練習を始めました。中学卒業後、運動とは無縁でしたので、最初は500m走るのが精一杯でした。筋肉痛にも負けず、練習を続け、1年前にテレビで見た地元のハーフマラソンに出場、完走し、ゴールした瞬間は、感極まるものがありました。これは、走った人にしか味わえない感動で、言い表す事は困難です。それから約

6年経過しますが、その魅力に取りつかれ、日々、練習を積み、毎年、平均5つの大会に参加しています。その1つが、長岡技科大の開学記念マラソンです。

第7回は、珍しく、雨のレースになりました。スタート後、田宮病院に向かうカーブを伴う坂を上りきり、十字路を左折する所で、先導の自転車が直進しました。コース変更は聞いていませんでしたので、半信半疑でしたが、後に続きました。コース間違いが判明し、引き返しましたが、7位入賞が精一杯でした。第3回から連続出場していますが、ワーストの順位になってしまい、非常に悔しい思いでした。

しかし、ゴール後には、おいしいおにぎりと豚汁のおもてなしと、何よりもゴールの感動を味わう事が、ワンコインで出来る、この大会は、コスパ最高です。皆さんも、チャレンジしてみても如何でしょうか？

家族でも楽しめるコスパ最高の大会

森山 学 (電子機器工学専攻 平成16年3月修了)

この度はご縁あって技大マラソンの感想を書かせていただくことになりました森山です。

よろしくお願いいたします。

技大マラソンを最初に走らせていただいたのは4年前の第4回大会でした。それから昨年の第7回大会まで4年連続で参加させていただいております。

もちろん、今年も参加させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします！

私と技大マラソンとの出会いは市政だよりでした。

いつものごとく何気に眺めていると、「技大マラソン」の文字を発見！「技大マラソンなんてあるんだあ…ってことは、アップダウンのある大学周りを走るのかな？なかなかきつそうだなあ、でもトレーニングに良さそうだから走ってみようかなあ！」と、大学時代に通った道のりを少し思い出しながらエントリーしたことを覚えています。

最初の年は10kmの部に参加しました。予想していた通り、なかなかのアップダウンを走ることに。

しかし、沿道の温かい声援や立て看板のユニークな励ま

しの言葉に、6～7kmの登りも心折れずに、46'15"の17位でゴール！4'37"/kmとまずまず。

翌年の5回大会は仲間と10kmに参加、一昨年、昨年の6、7回大会は2kmの部に参加しました。

特に、一昨年の2kmは娘が初めて一緒に走ると言ってくれたので、初めての親子ランとなりました。

当時年長だった娘には大学周りのアップダウンはきつそうでしたが、途中 会話をしたり、手をつないだり、立て看板の前で写真を撮ったり、仲間とハイタッチをしたりしながら楽しく走ることができました。

走った後は参加賞のおにぎりに豚汁、スポーツドリンクにバナナで体力回復！さらに、賞状にメダル、タオルにボールペン、おやつまで。終わった後も子どもは縁日で楽しめて、参加費は1人500円。2kmの部を親子で参加の場合は2人で500円とコスパ最高の大会です！

皆さんもスポーツの秋のワンシーンに技大マラソンをご検討されてはいかがでしょうか？

【告知】第8回 復活！開学記念 技大マラソン大会 開催日決定

これまで多くの皆様からご参加、ご協力をいただいているマラソン大会を今年も開催します。

詳細が決まり次第、ホームページに情報を掲載しますので、奮ってご参加ください。

日時 2019年9月28日(土) 10:00スタート(予定)

詳細 Comming soon

イベント報告

女子学生対象のメイクセミナーを開催しました!

同窓会理事補 **近藤 みずき** (技術支援センター・技術専門職員)

今年度も11月28日(水)に、本学の女子学生を参加対象としたメイクセミナーを開催しました。このセミナーは、同窓会の学生支援事業の一環として、長岡技術科学大学の共催、株式会社資生堂様のご協力の下、H21年度から始め10回目を迎えました。就職活動や新社会人として必要な、基本的なスキンケアや第一印象を良くするメキャップや身だしなみの方法を90分の実習を通して学びました。参加者の生物機能工学専攻1年作内 淳さんからは、「資生堂セミナー後から化粧水の塗り方と、ファンデーションの塗り方を指導していただいた方法で行っています。今まではファンデーションを顔全体にまんべんなく塗っていたために小鼻の崩れがひどく、なるべくファンデーションは使わずにパウダーのみを薄く塗るようにしていました。しかし、今回参加したセミナーの指導の下でファンデーションを付けると小鼻の崩れも気になりにくく、長時間綺麗に保つことができるようになり日々の化粧が少し楽しみになりました。」などの感想が寄せられ、大変嬉しく思いました。このセミナーは毎年大変好評をいただいております、同窓会では、引き続



きメイクセミナーなど、学生の皆さんが社会に出ていくためのお手伝いをしていきたいと考えております。機会がありましたら、ぜひご参加ください。

技大祭開催報告

技大祭実行委員長 **金子 裕亮** (電気電子工学課程4年)

こんにちは。第38回技大祭実行委員会委員長を務めました金子裕亮です。今年度の技大祭について報告します。今年度の技大祭は9月15、16日に開催されました。テーマを「Puzzle」とし、学生、地域の方、来場者、一人ひとりがパズルのピースのように集まり、皆様の力で活気あふれる技大祭を作り上げることを目指しました。4000人を超える多くの方々に足を運んでいただき、今年度も大盛況で終えることができました。

今年度の技大祭ではサークル、研究室による模擬店、演舞、体験コーナーなど、学内の参加者による多数の企画が開催されました。ここでは、その内容の一部をご紹介します。まず、留学生会による「国際祭り」で開かれた、各国の郷土料理を振る舞う模擬店や伝統的な演舞などが好評でした。他にも、ギダイジャーによる「ヒーローショー」、ゆるキャラの「クイズ大会」、「フレンドパーク」など、お子様にも楽しんでもいただける企画が多数開催されました。また、技大の高度な技術・研究を紹介する「研究室公開」、「研究フォーラム」など、技大の特色を生かした学術系の催しも開催され、川口町の方によるピザの販売やダンスパフォーマンス、フリーマーケットなど、地域の方にもご協力いただきました。ゲスト企画では、お笑い芸人の「アイデンティティ」と「パニーニ」の2組のネタ&トークが非常に盛り上がり、毎年恒例の

ビンゴ大会も豪華景品揃いで好評でした。

この技大祭の開催にあたりまして、同窓会からは同窓会費という形でお力添えをいただきました。各種企画の充実などの運営費に充てさせていただき、おかげさまで無事に技大祭を終えることができました。この場をお借りして厚くご御礼申し上げます。

次年度の技大祭でも、皆様が楽しめるような企画を多数ご用意する予定です。次年度もぜひ技大祭に足をお運びください。技大祭実行委員一同、心よりお待ちしております。



大学近況

ホームカミングディ2018の開催について

長岡技術科学大学 総務部総合情報課 基金・卒業生室

2018年9月16日(日)、本学にて2回目の「ホームカミングディ2018」を開催しました。(第1回は、2017年9月23日(土)開催)当日は技大祭2日目。晴天にも恵まれ、キャンパスは家族連れの方をはじめ、大勢の人に来場いただきました。

ホームカミングディには、卒業生の皆様、在学生、新旧教職員など約130名の参加があり、東信彦学長、丸山暉彦名誉教授懇談会会長、磯部広信同窓会会長の挨拶の後、本学の歴史紹介ビデオ「NUT ヘリテージ」が上映されました。

続いて、「グローバルに活躍されるOB」として国際的に活躍されている佐藤豊氏(建設工学専攻10期)、澤俊詩氏(電子機器工学専攻7期)のお二人からご講演をいただきました。その後の「在学生と卒業生との座談会」では、「長岡技大の



グローバル化に向けて」をテーマに海外実務訓練経験者4名の在学生がそれぞれの経験を報告し、講師お二人や参加者の皆様とディスカッションをし、様々なご意見を頂戴することができました。

その後の交流会では、お世話になった恩師や懐かしい友人との再会に歓喜し、学生時代を懐かしみながら、旧交を深めました。

本学は、今後も定期的にホームカミングディを開催致します。同窓生の皆様に確実にご案内をお届けするためにも、校友会ホームページにて皆様の情報の登録をお願いしております。(<https://alumni.nagaokaut.ac.jp/index.html>) また、校友会ホームページでは今後、さまざまな情報を掲載していきたいと考えておりますので、ぜひ、ご訪問ください。今後とも長岡技術科学大学校友会をどうぞよろしくお願いいたします。



「日本酒を通して地域と密接な繋がりを大切にするしゅがく」

しゅがくサークル部長 西元 翔 (電気電子情報工学課程4年)

しゅがくは長岡技術科学大学の創設時期からあるサークルです。そんな伝統のあるしゅがくについてご紹介させていただきます。まず「しゅがく」とは、お酒を学ぶ酒学、お酒を楽しむ酒楽、朱を学ぶ朱学、朱を楽しむ朱楽という4つの意味を持つ言葉です。「朱」は、日本酒がその地域の歴史に古くから深く関わっていることや、お酒を飲んだ人が顔を赤らめることを表しています。つまり「しゅがく」とは、日本酒を学ぶことでその地域の歴史についての知識を深めるとともに、日本酒を飲んで顔を朱らめた友達や先生、地域の方々と繋がりを深め合うことを楽しむ、そんな奥深い意味を持った素敵な言葉です。次に、年間スケジュールをご紹介させていただきます。しゅがくは3つの大きなイベントとして、5月末に開催される朱陣、9月中旬の技大祭での振る舞い酒、10月初旬にアオーレ長岡で開催される長岡酒の陣では利き酒コーナーの運営を行っています。中でも朱陣というイベントでは毎年、新潟県内の約10の蔵元さんを直接技大のセコムホールにお招きし、自慢の日本酒を販売して頂いてお

ります。この朱陣は、技大生の皆さんに新潟県の色んな日本酒を楽しんでいただくと同時に、普段は聞くことのできない酒造さんの日本酒に対する情熱や想いを伺う機会となるため、

とても貴重なイベントだと確信しております。その他には、毎月末の定例会や、田植え、稲刈り、酒蔵見学など、学内外で積極的に活動しています。しゅがくのこのような活動は、おぐまやという酒屋の池上さんという方をはじめとして地域の様々な方のご協力によって支えられています。私たちしゅがくサークル一同は、日本酒を知ることによって地域の方々と密接に繋がる努力をするとともに、ご協力頂いた方々への感謝を忘れずに恩返ししていきたいと思っております。最後まで読んで下さり大変ありがとうございました。



【告知】長岡技術科学大学 同窓の集い 開催決定

今年は、多くの同窓生の皆様が交流できるように、東京で同窓会を開催することが決定しました。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時 2019年11月23日(土) 14:00~16:00 場所 ホテルグランドパレス(地下鉄「九段下駅」より徒歩1分)

詳細 Comming soon(ホームページ、郵送等でご案内予定です。)

会員寄稿

「Good opportunity」

Mazak Corporation 矢木 宏典（機械創造工学専攻 平成20年3月修了）

この度はこのような原稿を書く機会をいただき大変光栄です。今回この依頼を頂いた際に、すぐに思いついた言葉が、“Good Opportunity”（いい機会）でした。今までの私を振り返るいい機会になると思いました。

本学を修了し、ほぼ11年が経ちました。私は工作機械メーカーに就職し、現在はアメリカのケンタッキー州にある現地会社の技術部に働いています。元々英語が苦手で、できるだけ避けて通ってきました。今やその英語を使わなくては生活できない場所に身を置いている自分を大学生当時の私からは考えられません。

そんな私に転機が訪れたのは大学院生のときでした。交換留学生としてハンガリーの大学に4ヶ月間留学する機会を頂きました。当時英会話がまるでダメな私に、教授から言われたミッションは“生きて帰ること”。付け焼き刃の英会話と新調した電子辞書を持って、初海外のハンガリーへと旅立ちました。

留学して、徐々に英会話の向上を実感できたのですが、公用語が“ハンガリー語”ということもあり、街中に出るとハンガリー語しか通用せず、苦労しました。その頃、寮の管理人に片言のハンガリー語で話しかけたことからレッスンは始まりました。管理人に毎朝出入口で呼び止められ、「今日はどこに行くのか?」「今日は何を勉強するのか?」などハンガリー語で質問され、答えられないと通してくれません。お陰で当時生活する上では困らない程度のハンガリー語を話せるようになったことは、とても有難かったことを覚えています。

異国の地で生活することで苦労したことも多かったのですが、無事帰国することもでき、この経験は自信にもなり、海外で働くことが魅力的に感じるようになりました。

そして入社して9年経ち、かねてより希望していたアメリカ赴任の機会も頂き、現在に至ります。アメリカ生活では、仕事に



エリー湖 湖畔にて

おいても私生活においても、日本との違いを感じ、いつも驚きと新鮮味を感じながら生活しています。こちらの技術者は、何でも前向きにまずはやってみること、各自ビジョンを持ちそれに向かって行動します。そして、行動し始めると作業が早いことに驚かされています。

赴任して常々上司から言われることは、「失敗を恐れないこと」、失敗すればそれは今後フィードバックできるということです。最大の失敗は「やらないこと」。やりもしなければ、何も生まれず、良い機会も逃してしまうということです。

Good Opportunity. これから様々な機会に巡り合うことがあると思います。良い機会に恵まれたことに感謝するとともに、どんなことにも臆せず、日々精進していこうと改めて思います。

最後に、在学生の皆様が多くのことを経験され、これから飛躍されることをお祈りしております。

「無」から「有」へロボットに負けない問題解決能力を育てる

独立行政法人 国立高等専門学校機構

大分工業高等専門学校 都市・環境工学科 教授（農学博士）

帆秋 利洋（建設工学専攻 昭和60年3月修了）

長岡技術科学大学の在学生、同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この卒業生だよりへの執筆は2回目となります。私は、大学院時代に環境工学研究室で原田先生（現職：東北大学教授）から人生で大切なことを教えて頂きました。私は、技大4期生になりますが、当時の研究室は立上げ段階で何も無い貧乏研究室でした。実験に必要な装置は自ら創らなければならない状況のある日、先生が某企業の研究所からガスクロマトグラフという分析装置を頂いてきました。「さあ、これからこの装置を使えるようにしなさい」という大命題を頂き、「ガス…何それ????」と、困惑した事を昨日の様に思い出します。そんな何の知識も経験も無い事づくしで、全てがチャレンジの大学院生活でしたが、なんとか無事に卒業できました。その時の経験が活かされ、私は就職してこれまでに4回も新たな研究所の立上げに関わり無事に成功を収めたのは当時の経験のおかげであると感謝しています。

数年前から両親の面倒を見る為、実家に戻ることを計画しましたが、大分の田舎ではなかなかこれまで培った経験を活かせる仕事はありませんでした。しかし、昨年3月に32年間務めた大成建設（株）を退職し、母校でもある大分高専の教授として再就職することになりました。私は、3年生から専攻科2年生までを対象に、環境分野を中心とした授業を担当しています。

教鞭を執るに際して、これまでの企業生活を通じて人生で大切な事を若人に教えていきたいと思いました。それは、「問題解決能力」であり、「無」から「有」を生み出す力だと感じています。研究分野だけでなく全ての仕事において大事な事、それが「問題解決能力」であると確信しています。与えられた事をこなすのは、これからの時代はロボットで十分対応できます。私が大学院生時代に体得したロボットには無い「無」から「有」を創り出す能力を、未来を担う若人に伝え育成していく事、それが残された私の人生での課題であると考え、日々奮闘しています。

最後になりましたが、2017年に日経が調査した結果、長岡技大が企業の人事担当者から見た大学の総合ランキング第1位でした。この様な素晴らしい先輩、後輩を輩出した技大を誇りに思うと共に、これからも技大卒業生として恥じないよう生きてゆきたいと思っています。



高専校内の池で卒研生へ環境教育

「自由な時間」

合同酒精株式会社 酵素医薬品研究所 医薬品グループ 保坂 大（生物機能工学専攻 平成23年3月修了）

在校生・同窓生の皆様に於かれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。またこの度、この様な執筆の機会を頂いたことに感謝致します。折角の機会ですので、少し今までを振り返ってみたいと思います。拙い文章で恐縮ですが、最後までお付き合いいただけると幸いです。

私が勤めている会社は酒類事業を基幹事業としておりますが、その中で培われた微生物発酵の技術を活かし、食品用酵素や医薬品を扱う事業も行っております。私はその中で、入社後2年間は医薬品原薬の発酵研究を担当し、その後約6年間体外診断用医薬品の研究開発を行って来ました。研究職という仕事は、昔からの夢でもありましたので、現在の業務にはとてもやりがいを感じておりますが、その業務内容は、学生の時にイメージしていたものとは少し異なる部分もありました。

その中でも大きな違いは「時間の使い方」です。私が昔からイメージしていた研究職は、時間を忘れて研究活動に没頭し、新しい知見や成果を追い求めていくといったもので、実際学生時代はそれに近い時間を過ごしていました。それが「企業研究員」となった時に、就業時間外は全て「残業」扱いになります。そうすると会社側には「賃金」が発生致しますので、その時間を極力少なくするように求められます。弊社の場合は特にその「時間」に力を入れていたので、限られた時間で研究を行い、且つ最大限の成果を出すという生活に、当初はとても苦労致しました。その時に、「自由な時間」というのが、実はとても貴重なことだったと感じたのです。

私は高専からの編入で、進学した当初こそ多少の不安を感じることもありました。しかし、高専からの編入者が非常に多い

という本学の特徴から、気がつけば高専の延長の様な気持ちでスムーズに生活することができたと思います。今思えばこの環境が、「自由な時間」を過ごせた一因になっていたのでしょう。加えて、研究室での生活が、より「自由な時間」の大切さを教えてくれたように思います。私が所属していた微生物代謝工学研究室は、周りから見てもとても研究熱心な研究室でした。その様な環境下での生活は、まさしく研究という点において、私の人格形成に大きな影響を与えました。配属当初は甘々だった私ですが、先輩たちの熱量に感化され、研究の楽しさを知り、没頭し、打ち込むことができた、今思えばそこまでの「自由な時間」が、本学にはあったのだと今では思っております。

こうして思い返してみると、学生というのは色々な意味で「自由な時間」が溢れている期間だと思います。その「時間」をどの様に使うかは人それぞれですが、その「時間」をどう過ごしたかで、きっとその後の満足度が変わって来るのだと思います。在校生の皆様がその「自由な時間」を意識し、遊びにも研究にも有意義で充実した時間を過ごせることを祈念しております。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。



学会で再会した恩師と（右が著者）

大人

株式会社 ヒューズ・テクノネット 伊井 清人（材料開発工学専攻 平成23年3月修了）

大人。

大人とは？何歳から大人なのでしょう。二十歳から？2020年からなら18歳から？そんな定義についての議論はここでは横に置いておきましょう。私は社会人になってからが大人だと思っていました。いや、ポーっと大人になった私は社会人になってからも大人にはなれていませんでした。

3年ほど前に会社見学に来た人にこんな質問をされました。

「この仕事のやりがいは何ですか。」「この仕事の面白いところは？」「この仕事を通してどのように世の中の役に立っていますか、またその実感はどのようなときに感じますか。」この時私は回答に言いよんどしまいました。この時、『今まで通り』に業務をこなしているだけの自分に気づかされたのです。仕事内容に変化がなく、いつの間にやら思考停止に陥っていたのです。いや、逆かもしれません。思考停止していたために仕事内容に変化を感じなかった、仕事の面白さややりがいを探究していなかった。そもそも何も考えず、思考を放棄して命令されたことをやるだけではつまらなくて当たり前です。仕事のやりがいや面白味は他人から教わるものではなく、自らの中にあり、それを探し出すのも自分だからです。

そのような気付きから答えを探そうと思考を続けてきました。「広い視野で社会や未来への貢献を考えることで、いつもの仕事にも意味ややりがいを見出せる。また、より良い方法を模索する事は独創性を生み、仕事に面白味をもたらす。そして、やりがいと面白味によってやる気が引き出される…貢献(Service)、独創性(Originality)、やる気、活力(Vitality)…そうだ、『VOS』だ!!」

こうして私は『VOS』の精神を思い出したのです。在学時に本学の理念を私に浸透させてくれたのはお世話になった先生、職員、先輩方でした。この場をお借りして感謝の意を表します。

話は戻って冒頭の「大人とは」に対する私なりの回答は『大人とは自分で考え、自ら行動する人』です。世のためになること(Service)は何か、自分にこそできること(Originality)は何かを考え、それを活力(Vitality)として行動に移すこと。『VOS』の精神を体現していくこそ『大人』であると。

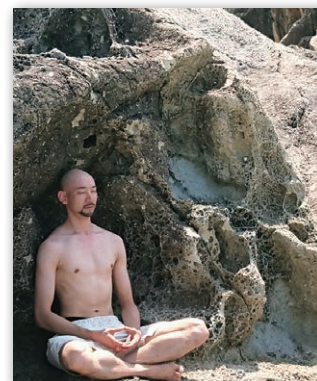
私も『VOS』の精神を思い出し、少し大人になったと思っています。

在学生の皆さん、『頭は考えるためにこそある』、『思考を止めるな!!』、『VOS』の精神を胸に宿し、自らが目指す素敵な大人になってください。

最後になりましたが、皆様のご健勝とますますのご発展を、またこれからも『日々是好日』となりますことを祈念申し上げます。



VOSの精神



“『VOS』の精神”ならぬ
“坊主の精神統一”（筆者近影）

●2017年度会計報告

1. 一般会計収支 <自：2017年3月1日～至：2018年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	5,903,486
雑収入	21,707
(公財)内田エネルギー科学振興財団 助成金	200,000
積立取り崩し	57,093
マラソン大会 参加費	74,000
前期繰越金	12,777,934
合 計	19,034,220

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	56,369
	広報費	976,028
	助成・貸与	200,864
	活動経費	5,330,696
	小計	6,563,957
事務費	会議費	71,756
	雑費	20,733
	小計	92,489
新規積立		0
次期繰り越し		12,377,774
合 計		19,034,220

2. 積立金会計収支 <自：2017年3月1日～至：2018年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額 (定期)	52,057,093
新規積立	0
合 計	52,057,093

■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	57,093
次期繰越額 (定期)	52,000,000
合 計	52,057,093

2018年3月3日
会計担当 坂田 健太2018年3月3日
会計監事 熊倉 清一
床井 良徳

●2018年度会計報告

1. 一般会計収支 <自：2018年3月1日～至：2019年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	5,902,466
雑収入	18,518
(公財)内田エネルギー科学振興財団 助成金	200,000
マラソン大会 参加費	60,500
前期繰越金	12,377,774
合 計	18,559,258

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	54,324
	広報費	455,004
	助成・貸与	1,319,247
	活動経費	4,879,320
	小計	6,707,895
事務費	会議費	66,353
	雑費	17,260
	小計	83,613
新規積立		0
次期繰り越し		11,767,750
合 計		18,559,258

2. 積立金会計収支 <自：2018年3月1日～至：2019年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額 (定期)	52,000,000
新規積立	0
合 計	52,000,000

■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	0
次期繰越額 (定期)	52,000,000
合 計	52,000,000

2019年3月9日
会計担当 坂田 健太2019年3月9日
会計監事 熊倉 清一
床井 良徳

●2019年度会計計画(案)

1. 一般会計収支 <自：2019年3月1日～至：2020年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	6,000,000
積立金の取り崩し	0
雑収入	20,000
前期繰越金	11,767,750
合 計	17,787,750

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	100,000
	広報費	500,000
	助成・貸与	1,000,000
	活動経費	6,000,000
	小計	7,600,000
事務費	会議費	100,000
	雑費	50,000
	小計	150,000
新規積立		0
次期繰り越し		10,037,750
合計		17,787,750

2. 積立金会計収支 <自：2019年3月1日～至：2020年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額 (定期)	52,000,000
新規積立	0
合計	52,000,000

■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	0
次期繰越額 (定期)	52,000,000
合計	52,000,000

2019年3月9日
会計担当 坂田 健太

編集後記

今冬の長岡は非常に雪が少なく、生活するには不便なく過ごしています。技大では、卒業・修了生との連携強化が不可欠であるとの考えから、昨年「NUT校友会」が発足し、イベントとしてホームカミングデーが開催されました。同窓会としても校友会の活動に協力しつつ、技大をさらに盛り上げていきたいと考えています。新たなイベントとして「同窓の集い」を企画していますので、ぜひご参加ください！

同窓会連絡先

長岡技術科学大学同窓会

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

電話/FAX 0258-46-5505 e-mail dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp

同窓会 HP : <http://nagaokaut.alumnet.jp/>Facebook ページ : <http://www.facebook.com/NutAlumni>

住所・勤務先等に変更がございましたら、同窓会HPにてログインしていただき、登録情報の変更をお願いいたします。